

2019 年第 1 号(2 月発行)

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所予防衛生課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

<報告> 病原体検出状況(病院検査室定点) 2018 年(平成 30 年)

神戸市では感染症発生動向調査事業実施要綱に定められている病原体定点(環境保健研究所で検査を実施)に加え、より多くの情報を収集・分析するため、独自に 13 か所の「病院検査室定点」(11 病院、1 検査機関、1 検診機関)を設置している。毎月「病院検査室定点」の検査室で検査した検体について、検体種別ごとの検査件数と検出した病原体に関する情報を報告いただいている。なお、検診機関の情報は健康診断として実施した検便のみの結果である。

今号では、2018 年(報告数 156 件)の病原体検出状況について報告する

【糞便】(表 1~4)

検診機関の検便(健康診断としての検便)を除く 12 病院検査室定点において、6,044 件中 879 件から細菌性の病原体が検出され(検出率 14.5%)、その内訳はカンピロバクター(64.8%)、黄色ブドウ球菌(17.3%)、サルモネラ属菌(5.4%)、下痢原性大腸菌(11.1%)であった。カンピロバクターの検出率は昨年と比較して大きく変化は見られない。黄色ブドウ球菌の検出率は年々徐々に減少傾向にある(2013 年 31.9%、2017 年 22.0%)。下痢原性大腸菌の検出率は昨年の 3.7%より増大した。下痢原性大腸菌の内、腸管出血性大腸菌の検出数は病院 9 件で、2017 年の病院報告数(4 件)から増加している。血清型は O157 が 5 件(毒素型:VT1:1、VT2:3、VT1/VT2:1)、O8(毒素型:VT1)および O145(毒素型:VT2)と O159(毒素型:VT1)、そして

型別不明(毒素型:VT2)が 1 件ずつであった(3 頁表 1 参照)。

また、ソネ赤痢菌が 3 件(2 患者)検出された。1 患者はハワイへの渡航歴があった。8 月にプレジオモナス・シゲロイデスを検出した患者は、カンボジアとベトナムへの渡航歴があり、カンピロバクター・ジェジュニも同時に検出されている。

ウイルスは、814 件中 78 件から検出され(検出率 9.6%)、その内訳はノロウイルス(57.7%)、ロタウイルス(28.2%)、アデノウイルス 40/41(14.1%)であった。2017 年の検出内訳と比較してノロウイルスが上昇(46.1%→57.7%)し、ロタウイルスが低下(41.6%→28.2%)した。これは全国的な検出動向と同様である。

原虫の検出は無かった。

【穿刺液】(表 5)

3,533 件中 607 件から検出され(検出率 17.2%)、その内訳は大腸菌(32.6%)、嫌気性菌(16.0%)、黄色ブドウ球菌(17.8%)で、2017 年と同様の検出状況であった。

【髄液】(表 6)

946 件中 8 件から検出され(検出率 0.8%)、その内訳は肺炎レンサ球菌(6 件)、黄色ブドウ球菌および B 群レンサ球菌が各 1 件であった。ここ数年肺炎レンサ球菌の検出率が増加しているのは、発生動向調査による侵襲性肺炎球菌感染症の増加と関連している。また、表に記載はないが、5 月に免疫不全状態の患者の髄液と血液からクリプトコックス・ネオフォルマンスが検出され、播種性クリプトコックス症の届出がさ

れた。

【咽頭及び鼻咽頭】(表 7)

11,864 件中 1,249 件から検出され(検出率 10.5%)、その内訳はインフルエンザ菌(58.0%)、肺炎レンサ球菌(35.0%)、A 群レンサ球菌(6.9%)であった。また 2017 年は検出されなかった髄膜炎菌が 7 月に 1 件検出された(2014 年 1 件、2016 年 2 件検出)。

【尿】(表 8)

19,260 件中 9,842 件から検出され(検出率 51.1%)、その内訳は大腸菌(44.3%)、エンテロコッカス属菌(19.8%)であった。2017 年と同様これら 2 種の菌で 60%以上を占めた。

【血液】(表 9)

45,541 件中 2,816 件から検出され(検出率 6.2%)、その内訳は大腸菌(37.0%)、コアグラール陰性ブドウ球菌(34.4%)、黄色ブドウ球菌(15.2%)であった。リステリア・モノサイトゲネスが 10 件検出され、2012 年以降、毎年検出が続いている。

【喀痰、気管吸引液および下気道からの材料】
(表 10)

18,887 件中 5,518 件から検出され(検出率 29.2%)、その内訳は黄色ブドウ球菌(38.7%)、緑膿菌(21.9%)であった。2017 年と同様の検出状況であった。

6 月、7 月、10 月にレジオネラ・ニューモフィラ(血清群 1)が分離された。環境保健研究所において、遺伝子型別解析を行った結果、遺伝子

型(ST)は、ST18, ST507, ST591 となり、土壌分離株が多く含まれる S1 グループ内に属することがわかった。

【尿道または子宮頸管擦過(分泌物)】(表 11)

5,762 件中 834 件から検出され(検出率 14.5%)、その内訳は B 群レンサ球菌(51.4%)、カンジダ(44.5%)であった。この数年にわたってこれらの 2 菌種がそれぞれ半数を占めている。

【検出された黄色ブドウ球菌の内訳】(表 12)

MRSA は 54.4%で 2017 年(57.6%)より減少した。2010 年に初めて MRSA の割合が 70%を下回り、その後は、低下傾向である。

【検診機関の検便】(表 13)

検診機関は食品取扱者と患者接触者等の健康診断の検便を実施している。検便 77,169 件中 83 件から検出され(検出率 0.10%)、その内訳はサルモネラ属菌 72 件(86.7%)、腸管出血性大腸菌 7 件(8.4%)であった。検出した腸管出血性大腸菌の血清型は全例 O157 で、毒素型は VT2 が 3 件、VT1&VT2 が 2 件、型別不明が 2 件であった。2017 年の報告数(11 件)より若干減少した。

神戸市環境保健研究所事務係

秋吉 京子